

紹介 部署

口腔 外科  
 口腔外科部長 大前 政利 科

大阪の南の方にすごい口腔外科がある！

2001年に現部長の大前が赴任しました。大阪大学口腔外科勤務時代に、あたためていた構想を大学医局より全面的にバックアップしていただき、当院に赴任してまいりました。りんくう総合医療センターの口腔外科では主に以下の診療を行っています。



▶口腔外科スタッフ

1 口腔癌、頭頸部癌

―あきらめない頭頸部癌治療―

口腔・頭頸部癌は私どもが最も力をいれている分野です。国内外に豊富な人脈と数々の治療方法（治療の引出）を持ち合わせています。癌の一次治療のみならず、治療困難な進行がんや再発癌によるがん難民を救済するための治療方法を駆使し、いつのまにか、「りんくう総合医療センター」の口腔外科なら何とかしてくれる」と府内のみならず他府県、遠く関東や九州から紹介されていらっしゃる方も多くおられます。当科の『超選択的動注化学療法』の力（ターゲル留置の手法と工夫は国際学会（ASCO、ESMO）でも注目を集めました。『超選択的動注化学療法』で低侵襲癌治療ができる一方で、投与スケジュールの工夫により絶大な効果を奏しています。外来通院で根治に持ち込める『外来動注化学療法』のプロトコルを開発し、手術・放射線治療を回避し根治の期待出来る方法の一つです。結果的に『切らない治療』が実践できています。さらに放射線

療法、温熱化学療法、ホウ素中性子捕捉療法、等々の併用で諦めない癌治療を提供しています。もちろん通常の癌手術、さらに高難度癌手術も行っており、『頸動脈合併切除バイパス手術』や『頭蓋底手術』などの特殊な手術も必要に応じて行っています。遊離骨皮弁再建（形成外科共観）により、癌組織を充分に切除した上で、機能的・形態的に障害を最小限にした手術をおこなっています。

2 顎顔面形成外科

―唇顎口蓋裂、顎骨骨切り術、瘢痕醜形形成―

大阪大学口腔外科は伝統的に唇顎口蓋裂治療のメッカであり、顎変形症の顎顔面骨切術の経験も豊富で、その経験と技術を当院でも生かして治療に当たっています。院内出産の症例は、出産翌日には、哺乳床やZAMの作成、唇顎口蓋裂の一貫治療の説明と手術準備にとりかかります。依頼があれば出張で対応します。

3 顎顔面外傷 ―頭蓋顔面骨折、軟組織損傷修復―

顎顔面外傷に関しては、当センターは救命救急センターが併設されており、多くの顎顔面外傷が紹介されてきます。比較的容易なケースから、多発高難度な高エネルギー外傷まで対応できます。とくに機能的に重要な咬合の回復は口腔外科ならではの知見が必要となります。

4 口腔顎顔面領域神経性疾患、粘膜疾患

―舌痛症、非定型顔面痛、三叉神経痛―

神経麻痺、舌痛症や原因不明の顔面痛が近年増加、注目されています。他施設で診断治療うけても、中々効果が上がらず苦しんで居られる方も多く受診されます。当科はこの診断と治療を出来る数少ない医療機関の一つです。

5 口腔外科外来手術（抜歯など）―外来手術―

特に『親知らず（智歯）抜歯』は口腔外科での主な外来手術の一つです。当科では熟練した口腔外科医と衛生士が揃っており、所定の手続き（お問合わせ下さい）を踏めば、一度の受診で初診・術前説明・手術まで完了します。勤務や学業への影響を最小限に出来る対策です。当科の年間1000例を超える埋伏智歯抜歯は、基本的には外来局所麻酔で安心して受けていただけますが、強い歯科恐怖症

などでは、準備のために受診していただいた上で、静脈内鎮静または全身麻酔も考慮いたします。

▶水平埋伏智歯抜歯 ▶舌癌（stageⅡa）動注化学療法CR



▶皮下留置動注カテーテル・リザーバー

▶口唇口蓋裂

▶口唇形成術

以上、当科は南大阪にかぎらず、大阪さらに全国で注目をあびる特殊な口腔外科です。現在大阪で最も狭い口腔外科診療室ですが、少数精鋭で、身近にこのようなすごい口腔外科があることを知っていただき、どうぞご利用ください。大歓迎いたします。

大前 政利

Profile



- 1984年 大阪大学 歯学部卒業
- 大阪大学 歯学部第二口腔外科入局
- 1987年 松阪市民病院 歯科口腔外科
- 1992年 米国テキサス大学サンアントニオ校 Health Science Center 内分泌代謝部門
- 1998年 新千里病院（現 済生会千里病院） 口腔外科・歯科
- 2001年 りんくう総合医療センター市立泉佐野病院（現 りんくう総合医療センター） 口腔外科部長

口腔外科相談メール

m-omae@rgmc.izumisano.osaka.jp

何でもお気軽にご相談ください。